

# 生涯学習

## 21世紀に向けて、公民館の一段の活動促進を求めて

次の3点について伺う。

**Q** 1 社会教育センターを拠点とする4つの公民館の使用状況について

2 時代のニーズに合わせた活動の展開をどのように考えているのか

3 子ども、老人、母親等の不安を抱える年代層に「心のオアシス」として、また、「心のケア」の場所」として重要なポジションを公民館に望みたいが

### 企画

#### 「西さがみ連邦共和国」における調査研究活動の内容と市町村合併問題に対する町の施策について

**Q** 次の5点について伺う。

1 現在行われている調査研究事業の内容はどのようなものか

2 それぞれの町の事業の比較検討のような調査も行っているのか

3 広報はこねの7月号から「市町村合併について考えてみよう」というシリーズが組まれているが、今後町の表情に

**A** 1 点目について、平成14年度の利用状況は、社会教育センターが101件で

1万134人の利用があり、稼働率は19.4%、温泉公民館は136件で

1,676人の利用があり、稼働率は5.7%、宮城野公民館は258件で

4,108人の利用があり、稼働率は9.1%、仙石原公民館は1,095件で

2万1,977人の利用があり、稼働率は26.9%、元箱根公民館は142件で

2,799人の利用があり、稼働率は11%となっている。

2 点目について、時代の要求に合わせ、高度情報化に向けてのIT講習会や、週末2日制が定着して行く中で自由時間の増加に伴う各種の文化教養講座等の実施さらに講習会についても、テーマを時代に即したものにするなど、いろいろな工夫をしながら事業展開を図っている。

3 点目について、各世代の人々が地域の公民館に気軽に出入りし、情報交換の場として、また、それぞれの方が抱えている心の悩みなどについて、親子人同士、また、同じ悩みを抱え

は、合併に関わるシミュレーションを実施するため、現在西さがみ連邦共和国事務局で内容を検討している。

このシミュレーションの内容ですが、1市3町の表情や行財政の状況を把握したものととして、町民の皆さんに議論のたき台に資するものでなければならぬと考えている。

2 点目について、使用料や手数料など、1市3町の比較をすることによって議論を進める内容のものもある。

3 点目について、合併問題の

ている方たちが会話することによって、悩みの負担を軽くするような場づくりも必要であり、コミュニケーションを通してまちづくり、人づくりにつながると考えている。

したがって、今後も多くの方々に親しんでいた

だけよう、公民館づくり、そして公民館の活性化を図って、少しでも心のケア、皆さんの悩みがそれぞれの方同士でお話し合いがされ、明るいまちづくりができればと考えている。

さまざまな内容について、国の支援策をまず第一にお知らせすることが重要であるという観点から、市町村合併に関する基本的な情報を町民の皆さんにお知らせし、共通の認識、あるいは理解をいただいた上で、箱根町の状況に合わせた内容を順次掲載しようと考えている。

4 点目について、真鶴町と湯

河原町の合併協議については、合併推進協議会のホームページ、協議会だよりからの情報収集や、両町の関係課と連絡を取り、必要な情報について収集し

ているほか、西さがみ連邦共和国事務局として、小田原市役所において、1市3町の職員が週に一度定期的な活動をしており、その中で合併の情報確認をしている。

5 点目について、市町村合併は目的ではなく、手段の一つであると考えているので、町民の皆さんが十分議論ができるよう、順次広報やホームページ等を通じて町民の皆さんに今後情報提供していきたいと考えている。



町講習会